

## 富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧（第 39 輯）の発刊にあたり

富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧第 39 輯の発刊を迎えることとなりました。本誌は富山医科薬科大学時代の昭和 53 年の第 1 輯以来、杉谷キャンパスの教職員の皆様の御協力を得て、医薬学図書館運営委員会の研究活動一覧編集委員の先生方のご尽力により継続して発刊されています。医薬系キャンパスの全教員の著書、原著、総説、学会発表等を網羅し統一した書式で毎年作成しており、歴史的意義のある刊行物です。対外的には、医薬学図書館のホームページや富山大学学術情報リポジトリを通して一般に公開され、研究活動の成果を社会に還元する役割を果たしています。また学内においては、教員業績評価データ作成のための基礎的資料として活用され、自己啓発の基盤の一つとなるとともに、情報の共有による研究の活性化等に繋がることが期待されています。

医薬学図書館は富山医科薬科大学附属施設としての昭和 54 年の開館以来、35 年以上にわたって、杉谷キャンパスにおける医学・薬学の研究・教育の様々なシーンで利用されてきました。この間、医学部においては、看護学科の創設、地域枠の導入による入学定員の増加、大学院修士課程の創設、また薬学部においては、6 年制導入に関連した学部・大学院組織の再編、収容定員の増加等をそれぞれ経験して現在に至っています。本図書館の利用者数は、学生だけでも開館当時に比べて約 1.8 倍に増大し、学習・閲覧のためのスペースが限界を超えた状況にありました。また、開館初期に比べて蔵書数が約 2.2 倍になったことから、書架スペースの狭隘化も深刻な問題となっていました。これらの閉塞的な状況を打開するために、歴代図書館長をはじめ関係各位のご尽力によって医薬学図書館の増改築が行われ、昨年 12 月に新しい医薬学図書館として再スタートすることができました。学習スペースの拡充に加えて、閲覧・書架スペースも充実し、様々な資料の電子化に対応した快適な利用環境の整備が図られ、医薬学図書館の機能はこれから大きく飛躍することが期待されます。今後とも皆様方の一層のご支援を医薬学図書館に賜りますようお願い致します。

最後になりましたが、第 39 輯の発刊にあたり、ご多忙の中ご尽力いただきました研究活動一覧編集委員会の先生方、業績の取りまとめを行ってくださった各研究室・部門等の先生方、並びに医薬学図書館課の皆様方に厚く御礼を申し上げます。本誌が医薬系キャンパスの皆様の研究活動の更なる発展に繋がることがを願っております。

富山大学医薬学図書館長 黒崎 文也  
Kurosaki Fumiya